

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/06/01 ～2018/06/30)

1. 勉学の状況

Deutschkurs は、文法事項としては形容詞の格変化・再帰動詞などを行い、テーマとしては旅行や衣服に関するものを扱った。Einkommen, Beschäftigung und Preisniveau では、労働市場において、見かけの賃金が柔軟(市場の需要と供給に合わせて賃金を変えることができる)な場合と硬直している場合の状況下で、様々な変数(賃金・資本など)が変化した時に均衡点はどのような過程で変化するのか、どのような結果になるのかを理解し、最後に労働市場と生産関数を組み合わせたものがどのような関数を取るのかを講義された。Democracy in the European Union では、EU 市民である自己同一性をどのように形成したかについて触れられた。今日の議論で、もはやヨーロッパに住んでいる人民が” EU 市民であるという意識を持っているかどうか” という議題は古い。すでにそれらは EU について情報を発信してきたメディアによって、上昇してきているのである。これからの議題は” どのようにしてこの自己同一性を持ってもらい、割合を上昇させるのか” という段階にきている。

2. 生活の状況

【Japan Tag～日本で見るとより美しい空の華～】

5月26日、この日は1年に1回、日本に関連した催し物がライン川周辺で開かれるJapan Tag。日本の市町村や企業が海外に向けてどんなテーマを、どのような方法でアピールしているのかを調べるため、早速会場に向かった。

会場は主にアルトシュタットあたりのライン川沿いで、自治体は大阪市・福島県・千葉県などが参加し、企業としてはANA・チョーヤ・HISが参加していた。自治体の中で1番面白いと思ったのは福島県だ。福島県はノルトライン・ヴェストファーレン州と再生可能エネルギー産業で提携を結んでいて、フクシマとNRW州との関係性を説明するとともに、福島県自体の魅力をアピールしていて、非常にわかりやすく興味深いブースであった。一方、我々が千葉県のブースは書道・折り紙体験を行なっていたが、旭市とデュッセルドルフの交流については壁に掲載する程度に留まり、ハ

ツキリ言って折角の認知活動の機会を無駄にしているとしか思えなかった。やる気が無いのか、それともやる気の方向性があらぬ方向に向いているのか。せめて千葉への理解を深めてもらうためのイベント(例:福島県のブースでは、景品ありのクイズを行っていた。)をするべきだろう。

企業は各ブースがそれぞれ適した企画を行っていたと個人的には思う。チョーヤは熟成梅酒やサイダー割りの販売、ANAはアンケートに答えた人に麦わら帽子を配り、HISは豪華景品付きクイズを行っていた。その他個人が出店しているブースでは、マンガ・フィギュアの販売、演舞の披露、着物や簪・根付の特売などを行い、様々な方面から日本文化をアピールして盛り上がっていた。

そして夜になると、ライン川で日本の花火が打ち上がる。花火を見に行くのは何年ぶりだろうか。夏の風物詩ではあるが、有名な大会は人が多く混雑しているし、その上蒸し暑いので見に行くのが嫌だったのだ。しかしデュッセルドルフは5月の下旬なので、比較的涼しく湿気も無いし、その上場所を選べばそこまでの密集度ではないので、不快感なく見る事が出来る。そんな好条件の中、久しぶりにこの目で見た花火はやはり美しく、ライン川の水面と人々のまなこを輝かせたのだった…。

【東南欧26泊28日の旅：ヴェネチア編～真珠の迷宮～】

まぶたを上げると、“麗”が現れた。淡いセルリアンブルーのアドリア海に、リモンチェッロでできたかのような家々。どこか穏やかで、やわらかな風景ながら、これまでに見たことのないそのシーンは、閃光のように海馬に入り込む。海に渡るレンガの橋を超え、列車は終着ヴェネチア・サンタ・ルシア駅に入った。

ヴェネチアで驚くべきことの1つは、車道の代わりに水路が走っていることだ。それゆえ自動車が走っていることは基本的に無く、人々の移動手段は徒歩か、「ヴァポレット」と呼ばれる水上バスである。早速ヴァポレットに乗って、今回泊まるユースホステルに向かった。ヴェネチアは冬でも人気の観光地のように、宿泊料は他の都市と比べて高いので、お金の余裕が無い方は早めに予約するか、Air BNBやカウチサーフィンなどのサイトを利用して費用を節約しよう。ただし費用が安い分、相応のリスクがあることは承知しておいてほしい。ホステルに荷物を置いて、早速ヴェネチ

ア探索へ。時刻はすでに 17 時半、黄昏時の太陽は建物に影を落とし、夜の訪れを映し出す。夜の散歩も楽しそうだが、勝手がわからない初日から行うのは少々リスクが高いので、サン・マルコ広場のあたりを適当に見てまわって、適当なレストランで晩御飯を済ませて帰ることにした。

日が沈みかけていたのもあって、広場にはそれほど多くの観光客もおらず、じっくりと眺めることができた。広場の周りには高級ブティックやオリジナルブランドの革製品、お土産物を売るお店が軒を連ね、狭い通りは賑やかだった。ひとしきり歩き回って満足したところでレストランを探し始めたのだが…おかしい、見覚えのある場所に戻ってこられない。はて、反対の道だったろうかと逆に行くも、その先もまた見覚えがない。地図を見てなんとか自分の現在位置を把握して広場に戻るように進んでいるはずなのに、なかなか開けた場所が現れない。(これは、迷子ってやつやないか…)、暮れゆく空が焦燥感に拍車をかける。どうにも困ってしまったが、偶然一軒のレストランを発見したので、落ち着きを得るために入ることにした。

ゆっくりと食事をし、安堵感と落ち着きを取り戻したら、サン・マルコ広場を目指して歩き始める。すると不思議なことにあっさりと戻れてしまった。これは私だけかもしれないが、ヴェネチアは小路が複雑に絡み合っていて、方向感覚が狂って道に迷ってしまうことがしばしばあるのだ。別の日も目当てのレストランを探して 2 時間以上歩き回った挙句、全く違うところにたどり着いたりしたが、自分がどこから道に迷い始めたのかわからないので、解決のしようがないのである。(筆者が方向音痴なだけでは…)とお思いの方が大半だと思うが、それを加味しても『アドリア海の真珠』と称されるヴェネチアは、まさに『真珠の迷宮』とでもいうべき街でもあった。

【東南欧 26 泊 28 日の旅：短編～日本で乗車不可能！？寝台列車乗車記～】

なぜ、この旅は「26 泊 28 日」なのか。車中泊という答えには容易に至りそうだが、寝台列車に乗るという想像ができた人は少ないのでは、と私は思っている。かつてはブルートレインなどが日本各地へ向けて走っていたのだが、新幹線の登場と発展とともに衰退。現在では、日本で通常運行している寝台列車は「サンライズ瀬戸・出雲号」だけで、ノビノビシート以外は全席個室というものである。これはすなわち、ブルートレインの代名詞ともいえる三段ベッドの客車には今では乗れないということであ

る。一方ヨーロッパでは、現在でも夜間に特急電車が走り、寝台列車も各地で運用されている。座席の種類も普通のシートから三段ベッド・個室まで様々あり、幼少期から鉄道が好きな筆者としては貴重な体験ができる好機なのであった。

今回乗るのは、ローマからウィーンを結ぶÖBB(オーストリア国鉄)の寝台列車。もちろん個室を取るほどの余裕は無いので、三段ベット・6人一室の席を指定した。座席指定料金は確か34ユーロだったはずである。ちなみに、ÖBBではなんと朝食がサービスで提供されるので、「移動しながら寝られる、風呂なしの hostel(朝食つき)」と考えれば34ユーロはお値打ちだと思う。

3月13日20時30分、寝つきを良くするためにホテルのバーで“ゴットファーザー”というカクテルを飲んだら、半分もしないうちに酔っ払って晩御飯を全て吐き出しフラフラな筆者が、いよいよ寝台列車に乗り込む。今夜の寝床は、三段ベッドの一番上。ラゲージスペースが無いので、客室上部の空いた場所にスーツケースを無理矢理放り込む。第一印象は「窮屈」だった。縦・横幅は寝るのに十分なスペースがあるのだが、ベッドと天井までが低いので上体を起こした時の圧迫感が凄いのである。なんとか寝巻きに替えて横になってみると、思いの外寝心地は良い。当然クッションやスプリングは無いのだが、疲れた時の、電車で揺られて気持ちよく寝落ちしてしまう感覚を、身体を横に出来ることによって全身で感じられる、といったようなものだろうか。ただ、カーブを曲がった時に胃袋が上下どちらかに引っ張られる感じはなんとも気持ちが悪く、なれるまで少し時間がかかった。

翌朝、ドアをノックする音で目が覚めた。車掌さんが朝食を持ってきてくれたのだ。朝食の内容は、パンが2個にジャムとバター、飲み物にコーヒーか紅茶であった。簡素ではあったが、なんだか美味しかったと記憶している。のんびり着替えて、残ったコーヒーを飲みながらボーッと車窓を眺め、朝7時55分、列車はウィーン中央駅に到着。高さの問題こそあったものの、想像以上に快適だったので、かなりスッキリした状態でホームに降り立つことが出来た。しかし、ここはまだ中継地にすぎない。我々は目的地であるブタペストを目指し、次の列車を確認するためにホームを後にするのだった…。

[次回予告]…初めて聞くハンガリー語、初めて使うフォリント、経済発展を感じさせない古く脆そうな建物、あらゆる方向から不安になってくる国、

ハンガリー。だが、対照的に国民は来たるべきその日に備えて着々と準備を進め、盛り上がりの気を高めていた。Nächste Mal、【東南欧 26 泊 28 日の旅：ブダペスト前編～1848年革命と自由戦争記念日～】

次回は【ハウスパーティーにお呼ばれされました】、【東南欧 26 泊 28 日の旅：ブダペスト前編～1848年革命と自由戦争記念日～】について書いていこうかと思えます。